

反射材を活用しよう！

10月から12月は交通死亡事故が多発する時期となっています。

また、日没も早くなり車の運転中、見えづらいなと感じるときはないですか？その夕暮れ時間の17時～19時は「**魔の時間帯**」と呼ばれ、特に注意の必要な時間となっています。

歩行者や自転車利用者から見て、自動車が接近してきていると分かっているにもかかわらず、自動車の運転手からは歩行者や自転車がよく見えないときがあります。自動車を進めていると、すぐ近くに自転車や歩行者がいてビックリすることがあります。

そこで明るい目立つ色の衣服の着用や靴、カバン、杖などに反射材用品などを着けて、自分の存在を周囲に見えやすいようにしましょう。

夕暮れ時間や夜間は、自動車の距離や速度が分かりにくくなることが多いので、道路を横断するとき、自動車とすれ違うときなどは明るい時間帯よりも注意を払いましょう。



反射材なし



反射材あり



反射材なし



反射材あり



だろう運転

例)こちらが優先なのだから車は交差点に進入してこないだろうなど自分に都合のいい解釈で運転してしまうこと。



かもしれない運転

例)自転車やバイクが飛び出してくるかもしれないからいつでも停止できるように慎重に注意しながら運転すること。

危険を予測しながら、「かもしれない運転」を心がけましょう。

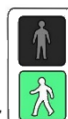
信号の色の意味を確認しましょう



車は停止線を越えて進んではいけない
歩行者は横断してはならない



車両は直進・左折・右折できる
歩行者は進むことができる



基本的には「止まれ」
「注意して進め」は間違い

横断前に点滅が始まった→横断を始めてはいけない
横断中に点滅になる→はや歩きで渡り切ってしまう